

令和4年度 第1回千葉市スポーツ推進審議会議事録

- 1 日 時 令和4年7月20日(水) 午後2時00分～午後3時15分
- 2 場 所 千葉市役所議会棟 第3委員会室
- 3 出席者 (委員)
小川直哉会長、本澤英雄副会長、上田日登委員、五月女重夫委員、高橋薫委員
馬場宏輝委員、林田義久委員、山下みゆき委員、山根和子委員、吉澤裕子委員
(事務局)
神田生活文化スポーツ部長、内谷スポーツ振興課長、伊橋スポーツ振興課長補佐、
飯山担当課長補佐、堀越主査、前田主査、内山主査、田口主任主事、松本主事、野
崎保健体育課長補佐、森崎主任指導主事、内藤公益財団法人千葉市スポーツ協会施
設長
- 4 議 題
 - (1) 報告
 - ア 令和3年度スポーツ振興事業実績及び令和4年度方針と施策について
 - ①スポーツ振興課
 - ②保健体育課
 - ③スポーツ協会
 - イ 千葉市スポーツ推進計画の進行管理について
- 5 議題の概要
 - (1) 報告
4項目の報告を行った。
- 6 会議経過
開 会 午後2時00分
【伊橋課長補佐】本日の進行を務めます、スポーツ振興課の伊橋でございます。なお、本審議会は千葉市情報公開条例により、公開することになっております。本日傍聴者はおりません。なお、会議終了後、議事録の作成、議事録の確定を行い、開示されることとなりますので、あらかじめ御了解ください。それでは、初めに委員の皆様のご紹介をいたします。
<「委員一覧」に基づき紹介>
なお、委嘱状につきましては、委員の皆様にはご内諾をいただいておりますので、お手元に配付させていただきました。
続きまして、生活文化スポーツ部長の神田よりご挨拶申し上げます。
【神田部長】本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。また、日頃から本市のスポーツ行政にご尽力いただきまして誠にありがとうございます。本スポーツ推進審議会は2年の任期となっております、前回から引き続きお引き受けいただいた方のほか、今回から4人の方に新たな委員としてご出席いただいております。これから2年間にわたり、本市のスポーツ施策についてご審議いただくこととなります。どうぞよろしく願いいたします。

さて、2022年の半ばも過ぎた現在、新型コロナウイルスの感染者数は再び増加傾向にあります。スポーツに関わる皆様のご尽力により、新型コロナウイルス対策を施しながらスポーツ活動やスポーツイベントが行われ、市民がスポーツに触れ合う機会が生み出されていることに心より感謝いたします。

また昨年度は東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が行われ、スポーツに対する関心が高まるとともに、国では第3期スポーツ基本計画が策定され、令和4年度から5年間の取り組みが示されました。

第3期スポーツ基本計画では、3つの新たな視点が掲げられ、「スポーツをつくる、はぐくむ」「スポーツであつまり、ともにつながる」「スポーツに誰もがアクセスできる」が必要とされました。

さらに、国として総合的かつ計画的に、「多様な主体におけるスポーツ機会の創出」「国際競技力の向上」「スポーツによる健康増進」「スポーツを通じた共生社会の実現」など、12項目の施策に取り組むとしております。

このようにスポーツを取り巻く環境が変化し続ける中、市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツを楽しむ環境づくりに様々な視点から取り組むことが重要になると考えております。

本日は報告事項のみとなりますが、今後2年間にわたり、委員の皆様の豊富なご経験や知見から、忌憚のないご意見をいただくことをお願い申し上げます。簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

【伊橋課長補佐】続きまして、職員の紹介をいたします。

＜職員紹介＞

次に役員を選出でありますが、ここからは、会長・副会長が決まるまでの間、生活文化スポーツ部長の神田が仮議長を務めさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

【各委員】＜異議なし＞

【神田部長】それではご承認をいただきましたので、これからしばらくの間、仮議長として会議の進行を務めさせていただきます。お配りしている「令和4・5年度千葉市スポーツ推進審議会委員一覧」の裏面にあります「千葉市スポーツ推進審議会に関する条例」の第5条で会長、副会長を置くこととなっております。同条第2項により皆様の互選により定めていただきますようお願いいたします。立候補、または、推薦はございますか。

【五月女委員】再選に問題がなければ会長に小川委員、副会長に本澤委員を推薦いたします。

【神田部長】ただいま、五月女委員から、会長に小川直哉委員、副会長に本澤委員とご推薦をいただきましたが、ご意見のある方はお願いいたします。

【各委員】＜異議なし＞

【神田部長】ご意見がないようですので、会長に、小川直哉委員を、副会長に、本澤委員で決定したいと存じます。ここまで、仮議長を務めさせていただきましたが、進行につきまして、一旦、事務局に戻します。

【伊橋課長補佐】それでは、小川直哉委員は会長席へ、本澤委員は副会長席へご移動をお願いいたします。

【伊橋課長補佐】小川直哉会長にご挨拶をお願いいたします。

【小川会長】改めましてスポーツ協会の小川でございます。本審議会はスポーツ基本法の第31条に基づきまして、スポーツ基本計画並びにスポーツの推進に関する重要事項につきまして審議する審議会でございます。委員の皆様には忌憚のない意見をいただきまして私

もともと、市民の皆様型により一層スポーツの推進普及に貢献できればと思います。よろしく願いいたします。

【伊橋課長補佐】ありがとうございました。本澤副会長にご挨拶をお願いいたします。

【本澤副会長】本澤でございます。この度も副ということでもまた2年間よろしく願いいたします。特にこの会議では千葉市のスポーツ振興ということで大いに発展していくことを目標に我々もやっていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

【伊橋課長補佐】ありがとうございました。これからの進行につきましては、小川直哉会長をお願いいたします。

【小川会長】それではまず、「議事録署名人」についてですが、先程、進行の方から説明がありましたように、本審議会は会議の公開がされているわけでございます。議事録の確定方法につきましては、「あらかじめ指名された委員」による承認にしたいと思っております、よろしいですか。

【各委員】<異議なし>

【小川会長】それでは、議事録署名人として、高橋委員をお願いしたいと思います。高橋委員よろしく願いいたします。

【高橋委員】<了承>

【小川会長】それでは、会議次第に従いまして、進めてまいりたいと思っております。最初に、報告事項(1)の「令和3年度スポーツ振興事業実績及び令和4年度方針と施策について」、スポーツ振興課よりお願いします。

【スポーツ振興課職員】<資料1により説明>

【小川会長】ありがとうございました。続きまして保健体育課よりお願いいたします。

【野崎課長補佐】<資料2により説明>

【小川会長】ありがとうございました。続きましてスポーツ協会よりお願いいたします。

【内藤施設長】<資料3により説明>

【小川会長】それでは今までの説明の中で何かご質問ありますか。

【五月女委員】少年スポーツ連盟の五月女です。平成24年度から武道が必修になり、千葉市は合気道を選んでいただき、私も種目は合気道で指導しております。その中で、スポーツ庁の方から部活動の地域移行がニュースや新聞でも報道され、令和7年度にはそれが完全に移行していくということで、我々社会体育の指導者が受け入れ口になっていかなければいけないと認識しております。私が籍を置いている椿森中は、25年程前からスポーツ少年団、少年スポーツ連盟に加盟をしながらそのように動いており、少年スポーツ連盟の方でもチラシを作成し、千葉市には少年スポーツ連盟やスポーツ少年団という組織があるということを知りました。令和7年度には完全移行で学校部活動から地域部活動という方向に切り替わるというように聞いており、その段取りをしていこうと考えておりますが、スポーツ協会・スポーツ振興課・保健体育課の方でどのように移行の準備が進んでいるのかということをお教えいただけますでしょうか。

【小川会長】部活動の地域移行は国内での大きな問題だと思いますが、千葉市でどのように取り組む方針があるのか現時点でわかればお答えできますでしょうか。

【内谷課長】スポーツ振興課でございます。地域移行ですが、現段階で文部科学省の諮問機関から答申が出たという状況です。実際にスポーツ庁もしくは文部科学省の方から、部活をどのような形にしていくかという詳細な方向性はでておらず、あくまでも意見として出された状況です。ただし、課題として学校の先生の負担という大きな問題がありま

すので、その兼ね合いも含めて今後考えていかなければならないと思います。答申には令和7年と示されておりますが、千葉市では地域によって抱える状況が異なり、都市部と郊外で同じやり方が可能かということや、示されている様々な事例についても、それが千葉市全体で実施可能かということも検討しなければならぬと考えており、関係課で話を進めているところでございます。

【小川会長】保健体育課の方からはありますか。

【野崎課長補佐】令和3年度からスポーツ庁の委託事業で地域部活動のモデル事業を実施しております。昨年度から大椎中学校で陸上競技の一種目につきましては、大椎中学校学区のすぐ隣に土気アスリートクラブというスポーツクラブがあり、そちらに指導をお願いするという形になります。全部で10回ほどの活動を計画しておりましたが、コロナの影響で3回程度の活動しかできませんでした。今年も引き続き大椎中学校の陸上競技部で土気アスリートクラブに依頼し、主に土日の活動になりますが、モデル的に検証していこうということで考えております。昨年度陸上競技一種目でしたので、今年はさらにモデル事業を拡充していくということで+ α で二種目程度考えているところです。秋を目安に+ α の種目についてはどのような種目が良いか検討しているという状況です。あくまでも大椎中学校の近隣のエリアでモデル的に実施し、その後、広げられるかということを探っているという状況になります。また、スポーツ振興課からもありましたが、これからどのようにこれからどのようにこの事業を進めるかということにつきましては、8月にスポーツ庁から正式に、先ほど答申という話がありましたが、正式に各自自治体に通知という形で出されるということをお伺いしておりますので、それを受けまして検討主体や、今後どのような形が千葉市として相応しい環境なのかということを検討していくというのは、まさに入り口に立とうかということでございます。

【五月女委員】学校教育ですので、受け入れるにあたっては、社会体育指導者の資質が非常に必要になってくると思います。勝つことだけを優先している社会体育指導者はまだまだ多いです。少年スポーツ連盟やスポーツ少年団など、少年スポーツを預かっているところがメインになっていかなければいけませんので、その中で指導者の資質向上を図り、受け入れをしていかなければいけないと思います。土気アスリートクラブでは学校の先生で教える事にも慣れていているということもあるかと思っておりますので、そういったところで連携を図れたらと思います。

【小川会長】他に何か意見ありましたらよろしくお願ひいたします。

【林田委員】初めての出席のため、過去に議論されたことがあるかもしれないということと、一番長く競技に携わったのがサッカーなため、サッカーを例えに話すことがありますが一例として受け止めてください。今日の資料の中で気になったのは、体力運動能力の調査で、小学校中学校は非常に数値が低いということです。私はシニアサッカーもやっております、千葉はシニアサッカーで全国大会においてトップレベルの成績を最近も残しており、私の仲間も割合運動してるなど思っておりますが、小学校中学校の結果はずっとこの傾向なのでしょうか。

【保健体育課職員】コロナ禍に入り、今までこれほど低下することはありませんでした。やはり令和2年度にコロナ禍が始まり、学校において運動制限や心拍数が上がるような運動を控えたこと、部活動の練習についても制限が加わるなどが大きく影響していると考えております。各学校では工夫をして、限られた環境の中でも体力が向上できるように、また、子どもたちの運動に対する興味関心が下がらないように最大限努めております。運動

頻度や回数、運動強度が今まで比べ制限がかかっていることが原因の一つと考えております。

【林田委員】 コロナが流行する前はこのようなことはなかったということでしょうか。

【保健体育課職員】 はい。

【林田委員】 全国でも郡部地方に比べて都市部ほど数値が悪いということでしょうか。

【保健体育課職員】 全国的にデータを見ると、コロナ禍前と比べると少し低下しているということは千葉市だけではなくどの地域も同じです。興味深いのは総体の会場でお会いした経験のある顧問の先生と話をした際、一生懸命やっているが、運動の制限がかかり、練習量が今までを10とすると6、7ぐらいしかできていないこともあり、以前のような技能レベルの水準がコロナ禍前と比べると、低下しているとのことでした。このように感じている顧問の先生は多いのかなと思います。

【林田委員】 ありがとうございます。もう一点、先ほど部活の話がありましたが、部活は概ね中学校や高校が対象だと思いますが、いい選手が育ち強いチームになるということは、設備と指導者、そして個々の能力によると思います。中学校、高校に上がる前の小学校の段階における運動能力が低く驚きましたが、少年サッカーの指導部門ではゴールデンエイジという言葉があります。3歳から8歳もしくは14歳ぐらい、中学校の2年生ぐらいまでが、一番運動能力を伸ばすことができる人生に1度だけの絶好の機会だと言う言葉です。そこで、3歳ぐらいから小学校年代ぐらいまでに、一生懸命運動して運動能力を育てようという機会が多ければ、運動能力の数値も驚くほど伸びるだろうと思います。私が新潟県のある場所で、各学年10人から15人ぐらいのサッカーチームを指導しておりましたが、運動会の徒競走では、ほとんどチームに所属している選手が1番2番でした。そういったところで役に立てたということが、実感としてはあります。やはり外に出て活動すること、先ほどおっしゃいました心拍数を上げるような運動をすることがどれだけ大事かということが分かると思います。ぜひ、コロナの制限がなければ、そういった機会を多く作ってあげたいと思っております。ありがとうございます。

【小川会長】 他に何か意見ありましたらよろしくお願ひいたします。

【高橋委員】 スキャモンの成長曲線とあって、8歳までに大人になってもできる運動能力・運動神経が決まってしまうということがあります。ジェフ千葉では千葉市内の幼稚園、保育園を巡回して運動能力が向上する為のプログラムを作って実施していますが、やはり一年に一回程度かつ全部を回りきることもできませんので、それをどのように幼稚園や保育園で継続してもらえるかということは大きなポイントだと思っております。そうした普及活動を行い、各幼稚園、保育園で継続的に取り組んでいただければ、何年後かには千葉市内の子どもたちの運動能力が上がるのではないかと思います。しかし、結果が出るまでに5年程度かかりますし、一年に一回しか訪問できない中で、どのように伝えれば良いかということが大きな課題であり、そうした課題を解決できれば地域の課題解決に繋がっていくのではないかと考えております。

【小川会長】 ただいまのご意見は参考意見として受け取るということでもよろしいでしょうか。その他ございますか。

【高橋委員】 先ほど部活動の話が出ましたが、Jリーグでも大きな問題と捉えており、Jリーグとスポーツ庁が定期的に議論していて、助成制度が終了した際に、チームが指導者を無償で派遣することには限界があるということが一番大きな問題になると考えております。

指導者派遣バンクを作るといった方法もあると思いますが、どのように解決していくかということが大きな課題と感じております。

【保健体育課職員】 例えばアルビレックス新潟などは、ヨーロッパの一般的な総合型スポーツクラブのような形で、なおかつJリーグ100年構想を具現化しており、地域と密着しサッカーだけではなく、バスケットボールやそれ以外のスポーツも事業部門として抱えております。例えば運動部活動も持続可能性ということからしますとかなり厳しい状況にきていると思いますし、総体でも2校が合わさってようやく1チームとなる合同チームがここ数年増えてきていることや、働き方改革の視点で考えますと、教員の多忙化要因の一つとして部活動が大きな障壁になっている部分もあります。千葉市にはジェフ千葉があるということで、サッカーの部門に限らず、ほかの種目についても事業拡大ではないですが、そのような動きがあれば、地域の力をお借りするという一つの形として、アルビレックスのような地域と密着した基盤として千葉市の全体的なスポーツの発展や、スポーツに限らずまちづくり・人づくり・活性化ができるのではないかと思います。スポーツだけではなく、千葉市に住んでいるすべての人がスポーツを通じて幸せになれる、様々な場所で多様な人々が触れ合う、障害のある方も高齢者の方、小さい子どもも一緒になって活動する、部活というよりはスポーツを通じて社会をつくっていくといった方向が望ましいのではないかと思いますという話をクラブの方ともしておりました。これがすぐに実現するというところではないとは思いますが、千葉市にはプロスポーツチームがたくさんあります。これは他の政令市にもあるような環境ではございませんので、千葉市の強みとしてスポーツチームの力を借りながら様々な方を巻き込んでいながら取り組むことで、部活の持続可能性という問題も解決できるとともに街づくり人づくりというところにつながってくるのではないかと思います。すぐには難しいとは思いますが、サッカー以外のところにも広げていけるような仕組みがあると良いかなというのは個人的に感じるところでございます。

【小川会長】 分かりました。これは先生方の部活における負担の軽減と、少子化が進行している中で、1チームを維持できず何校か統合してチームをつくるというような事態がどんどん進展している中で、これは千葉市だけではなく全国的な問題だと思っておりますので、スポーツ庁から8月にガイドラインに出るということで、それを踏まえて次回の審議会で状況を説明していただければと思います。他にございますか。

【馬場委員】 今取り組んでいることは、スポーツをしたい人が参加するというものが多いと思います。そうした場合、スポーツが苦手であったり体力のない人が参加したくなるようなものが少なく、スポーツをしたい人だけが参加できるようなものになってしまいますので、体力はないが参加したい、スポーツ苦手だけど参加したいなど、スポーツをしたい人やスポーツが得意な人の単発イベントだけではなく、スポーツが苦手であったり、体力のない人が日常的にスポーツをできるような、スポーツ実施率が上がるような取り組みもあわせて実施しなければ、二極化が進むだけになってしまうと思います。例えば、地域で水泳を普及振興するということは既になく、水泳をやりたいのであればスイミングクラブに行くというような、経済合理性で動いているスポーツの方が体操も含めて増えてきておりますので、行政もスポーツしたい人達以外にもっと目をかけてあげられるようなことができたらいかなと思っております。私は睦沢町の役場のお手伝いをしており、肥満解消と体力向上に昨年から取り組んでおります。この場で詳細をご紹介します時間はありませんが、成功しましたら事例として紹介したいと思います。

- 【小川会長】 よろしくお願いいたします。他に何かございますか。
- 【各 委 員】 <なし>
- 【小川会長】 それでは引き続きまして千葉市スポーツ推進計画の進行管理について事務局よりお願いいたします。
- 【スポーツ振興課職員】 <資料4により説明>
- 【小川会長】 ありがとうございます。ただいま報告につきまして、何かご質問がありましたらお願いします。
- 【本澤副会長】 77番にスポーツ推進委員の活動ということで書かれているとおり、バレーボール大会や区の研修といった取り組みがコロナの影響で実施できませんでした。特にバレーボール大会は、1つの中学校に170人から180人という人数になってしまうため、残念ながら今まで中止をさせていただいておりましたが、少しずつでも前へ進むため、人数制限をした審判講習を今年度も実施しました。また、ジュニアスポーツは、密になるためになかなか実施することができませんが、地域によっては競技を変え、外で実施する競技を、人数制限を行いながら今年も実施をしているという状況です。早くコロナが終息し、これまで通りたくさんのお子どもたちに参加いただき、体力の向上などに貢献できればいいなというように思っております。
- 【小川会長】 その他、何かご質問ございましたらお願いします。
- 【林田委員】 部活の成績を上げたいということの中で取り組んでいるかもしれませんが、中学校、高校の年代の食事は非常に影響があると思います。私立強豪校では取り組んでいるかもしれませんが、公立ではあまり広がっていないかもしれません。スポーツ栄養学に特化した資格を持っている方もいると思いますので、そうした方に食事指導栄養指導を広めるということも一つの手ではないかと思えます。
- 【小川会長】 確かに栄養は大事な要素だと思いますが、それについて保健体育課の方で何かありますでしょうか。
- 【保健体育課職員】 体育の授業の中では栄養面に関するものが単元としてあるわけではありませんが、家庭科や総合的な学習の時間など、様々な教育活動の中で指導されるものだと思います。私が顧問をしていた際は、サッカー部でしたが、運動が終わって栄養を取るのであれば40分以内に吸収するよという知識は、顧問レベルとして伝えてはおりましたが、それが学校で組織立って行われているかどうかというところについてはまだまだだと思いますので、可能であればそういった知識も与えながらできる体制を整えたいと思います。
- 【小川会長】 その他、何かご質問ございましたらお願いします。
- 【吉澤委員】 質問ではありませんが、2020年からいなげの浜で活動させていただいており、裸足の文化という活動理念に基づき、地域資源を活かしたスポーツや、運動能力や心身精神面も含めて健康になるということを目的として、千葉市には非常に良い資源があることに着目し、ビーチのリニューアルもされたということから活動を始めさせていただいたところです。ビーチスポーツはまだマイナースポーツですので、大きな大会と金メダルや銀メダルにそぐうスポーツはビーチバレーボールだけですが、先ほど馬場先生がおっしゃられたスポーツがあまり得意ではなく、ハードルが高くて参加することができないような方がビーチスポーツイベントにはいらっしやいます。親子で裸足になるという機会が少ない今の日本の生活スタイルですが、千葉市には資源がありますので、是非そうしたところも含め、学校教育や部活動において裸足になって走ったり戯れたりするというだけでも、非常に刺激が多く運動能力に響くと思います。秋

からは港区で目の前にビーチがあるお台場学園という小中一貫校の体育の授業に、5年生からビーチバレーを取り入れていただくことになりました。こちらも部活動やクラブとは違い、運動があまり得意ではなく、バレーボールは痛いというような方がたくさんいらっしゃいますが、ソフトバレーの使用や、裸足で駆けるだけのクラスなど、授業というよりも遊ぶという分類になりますが、初めて23区の体育の授業に取り入れるということでスタートいたします。千葉市でも資源を生かし、裸足になって心身共に元気になるという取り組みを希望いたします。

【小川会長】その他、何かご質問ご意見ございましたらお願いします。

【上田委員】バレー教室をメインにやっております、現場で子ども達と触れ合う機会が多いのですが、週一回子ども達を集めてバレーを離れて、様々な競技を体験しようということでサッカーやバスケを教えるということにも取り組んでおります。バレー教室では小学生5、6名程度しか集まりませんが、その教室には13名程度の参加があります。専門競技に取り組んでいる子どもはすでにスポーツに興味があると思いますが、ライト層の子どもたちをどのように楽しくスポーツに巻き込めるかという観点で、運動嫌いの原因となる「できない」「痛い」を取り除き、柔らかいボールを使うなど、できなくてもいいので楽しめる雰囲気を作るところがすごく大事だと思います。イベントでは子どもが対象となることが多いのですが、人見知りをする子どももおりますので、ファミリーで一緒にできるようなイベントなどができれば、運動していない子どもたちが取り組みやすい環境になると思います。親子で楽しめたり、楽しくバスケやバレーができる場所やイベントが定期的にあるということが、継続性という観点でも良いのではないかと思います。

【小川会長】本来スポーツというのは楽しむものであり、辛く厳しいものではなかったと思います。ですから、原点に戻って楽しむことに導いていくということも重要ではないかと個人的に思っております。その他何かございますか。

【馬場委員】東京オリンピック・パラリンピックが開催される前や開催中は、よくレガシーと言われておりましたが、結局終わると計画にもレガシーという言葉はなかなか出てこないです。レガシーとは何なのかですが、パラスポーツフェスタを残していただいたり、オープンボッチャ千葉が実施されるということはまさにレガシーだと思っております。しかし、レガシーと言わなければ誰も分からなくなってしまうのではないかと感じております。そこで、昨年幕張メッセで車いすフェンシングにお手伝い関わった中で、昨年の段階でレガシーを残したいという話をして、レガシーを作るというプロジェクトを1年間やってきました。8月に当時のボランティアを集めて同窓会やります。まず同窓会を実施し、車いすフェンシングに関わったので、車いすフェンシングをモチーフにした手軽なスポーツを作ろうということでソフトパラフェンシングという競技を作りました。手軽な道具で、自分たちで自作して子どもから高齢者まで一緒にハンデをつけて楽しめるという競技を作りました。同窓会の中で設立総会を開いて日本ソフトパラフェンシング協会を作り、その後NPO法人化して事業展開していきたいなと思っております。誰でもできるものにしたので、小学校の授業で例えば図工の時間で道具を作って、体育の授業で一緒に楽しみ、ペットボトルの再利用などでもできますので、SDGsを学ぶというようなパッケージ化したような事業展開も、小学校、中学校でしていこうかなと思っております。また、復興五輪というコンセプトが霞んでしまいましたので、このソフトパラフェンシングを持って3月に被災地に行き交流をしようかと考えております。よろしくをお願いします。

【小川会長】 その他何かございますか。

【各 委 員】 <なし>

【小川会長】 それでは以上で報告事項は終了いたします。ご協力ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。

【伊橋課長補佐】 小川会長議事進行ありがとうございました。それでは、これをもちまして、「令和4年度第1回千葉市スポーツ推進審議会」を終わらせていただきます。

閉 会 午後3時30分